

特集

木^も林^りと暮^もら^らす



森林の現在

— 森林の移り変わりとは伊予市の現状 —

私たちが暮らしている伊予市は、周囲を山と海に囲まれた自然豊かなまちです。森林は、春の新緑や夏の深緑、秋の紅葉など、四季折々の表情を見せて、いつも私たちの目を楽しませてくれます。しかし、現在の森林は以前と比べて、様子が変わっていることを皆さんは知っていますか。

◎森林の移り変わり

もともと森林は、天然林が大部分を占めていましたが、戦時中や戦災都市復興のために木材の需要が増え、森林は大量に伐採され、ほとんど裸の状態となりました。これに対処するために、国は、国土緑化運動の推進や森林資源確保に力を注ぎ、人間の手によって植えられた人工林が増えました。

しかし、昭和39年に木材の輸入が全面自由化となり、国産材よりも安い外国産材が市場に供給されたことで、昭

和55年ごろをピークに、国産材の値段は下がり続け、それに伴って、林業に従事する人も減少の一途をたどっています。

◎伊予市の現状

伊予市の森林は、市全体の面積の半分以上58・8%を占めており、その約6割が人工林となっています。林家数と森林面積の推移(右下グラフ)からみると、森林面積は少しずつ増加していますが、林家数は激減をしています。これにあわせて、管理の行き届かない人工林が増加しています。

人の手によって植えられた森林は、人が管理をしなれば、健全な森林としての機能を十分に発揮することができません。

木材価格の低迷や林業従事者の高齢化・担い手不足など、非常に厳しいといえる林業経営のなか、伊予市には森林を愛し、森林とともに暮らす方たちがいます。

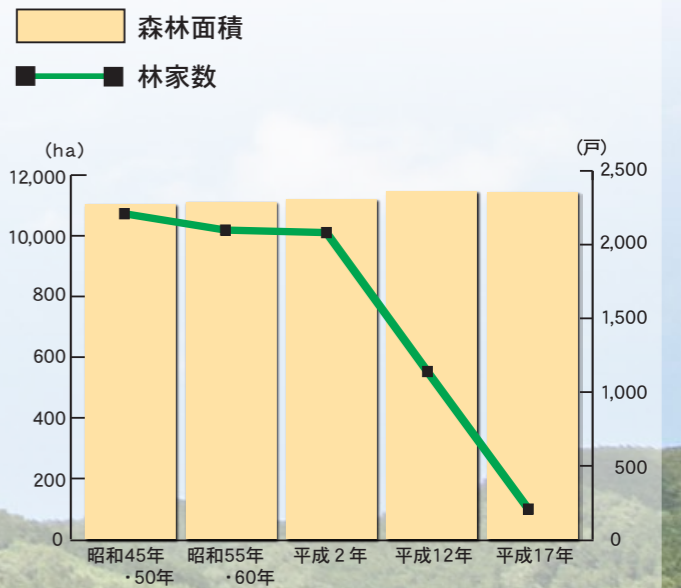


森林を守る

— 次世代に森林を引き継ぐために —

■伊予市の林家数と森林面積の推移

〔農林業センサス調べ〕



伊予市の森林データ

伊予市の総面積 19,447ha

伊予市の森林面積 11,429ha (58.8%)

◎森林の所有形態

国有林 121ha

民有林 11,241ha

◎森林の林種別

人工林面積 6,694ha (58.6%)
(スギ・ヒノキ・マツ・クヌギ等)

天然林面積 3,993ha (34.9%)
(マツ・カシ・シイ・ナラ・クヌギ等)

◎林業の担い手

窪中良樹さん(31歳)は、岐阜県の林業大学を卒業後、奈良県にある磨き丸太を専門に扱う材木会社に就職。23歳で生まれ育った中山町に帰郷しました。

現在、良樹さんは、夏秋トマトや観光イチゴ園などの農業を行いながら、原木しいたけ栽培、スギ15ヘクタール、磨き丸太5ヘクタールの山林を父修一さんとともに管理しています。

「中学・高校時代、父の手伝いをしてるうちに山に魅力を感じ、林業の道に進む選択をしました。」
「現在の林業を取り巻く情勢は非常に厳しく、林業だけでは生活できないのが現状です。もし、これだけで暮らしていけるのなら、専業にしたいくらい私は山が大好きです。」

「しかし、林業経営が厳しいからといって、山を放っておくわけにはいきません。私の代で林業の景気が回復しなくても、私たちの娘のために、代々受け継がれたこの山を守っていきたいです。」

※3ページの写真は、良樹さんと父修一さんが磨き丸太の管理をしている様子。

もり 森林で働く

— 健全な森林をつくる —



◎ 働プロシーズ

株式会社プロシーズは、地域農林業の担い手として、平成6年5月に設立された第3セクターで、主に市内の森林の整備を行っています。現在14人の従業員は、山主（山林所有者）に代わって、木の間伐や雑草の下刈り、植林など、年間150ヘクタールの森林を伊予森林組合と連携しながら整備しています。

◎ 従業員に話を聞きました



平林 盛二さん
(中山町中山)

平林さんは、高校を卒業後、株式会社プロシーズに就職し、現在入社15年目。

「植林して、苗木が大きくなるまでは、除草作業をしなければならぬのですが、夏場の下草刈りは正直たいへんです。しかし、自分たちが整備した森林が生き生きと成長する様子を見たり、チェーンソーを使って木を伐採するときに、この仕事のやりがいを感じます。」

もり 森林の恵み

— 私たちは森林の恩恵を受けています —

昔から森林は、きれいな空気や水をつくりだす「命の源」として、また、生産の場として、人が生活する上でなくてはならない大切なものです。

環境資源としての森林

森林は、地球温暖化をもたらす過剰な二酸化炭素を光合成によって吸収・貯蔵するなど、空気を浄化する機能を持っています。

また、健全な森林の土壌は、スポンジのようになつており、降った雨を地中に浸透させ、ゆっくりと河川に流すことから「緑のダム」と呼ばれ、台風や梅雨などの大雨時には、洪水や土砂災害を防いだり、濁水を緩和する働きがあります。

生産資源としての森林

森林から供給される木材は、建築材料や家具材料として、また薪や木炭などのエネルギー源として、さまざまな用途に利用されています。



これ以外にも、きのこ類・山菜類・薬草類が採れるなど、森林からの恵みは多岐にわたっています。

このように森林が、私たちの豊かな生活の実現に寄与していることを忘れてはなりません。

◎ 「間伐」の重要性

間伐とは、木が大きく成長すると、隣の木と枝葉が混み合つて過密状態となつてしまうため、それを解消するために、抜き切りをする作業のことです(左図参照)。

◎ 間伐をしないと…

過密状態となつた林内には光が入らず、利用価値の低い木材となつてしまいます。また、地表にも下草が生えないため、土がむき出しとなり、大雨が降ったときには表土が雨水とともに流れやすくなつて、土砂災害の原因にもなるのです。

◎ 間伐をした森林

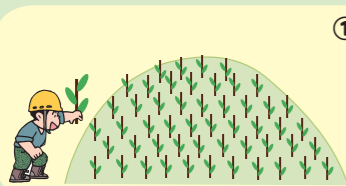
間伐をした林内は、多くの光が降り注ぎ、幹が太く枝葉もしっかりとした健全な利用価値の高い木が育ちます。また、地中にはしっかりと根を張ってくれることから、雨水の浸透量や保水量が多くなり、水源かん養機能が高まるなど、将来、健全で活力ある森林へと育つてくれます。

また、適切な間伐を実施した森林は、未実施の森林に比べて、二酸化炭素吸収量が多くなるといわれていることから、多くの森林を間伐することによって、地球温暖化防止に貢献できるのです。

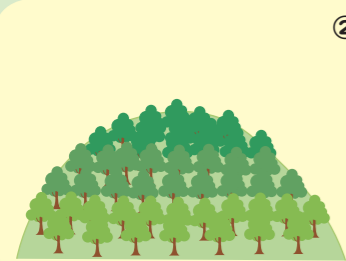
◎ 伊予市の取り組み

このようなか、市では、今後の山林の間伐を進めるため「特定間伐等促進計画」を策定しています。主に中山地区・双海地区の森林を平成20年度から平成24年度までの5年間で約900ヘクタール間伐するもので、地球環境の保全、中山間地域の活性化、山林災害の防止を図っていくなど、健全な森林づくりを目指していきます。

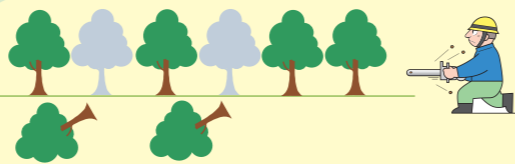
間伐ってなに？



①苗木を高密度に植え、成長に応じて間伐を繰り返し、良質な木材を生産する技術が受け継がれています。



②木が大きくなるにつれて森林は混み合ってきます。このままでは、地面に日光が当たらないため、下草が生えず、土が侵食され、保水力が低下します。



③そこで、間伐が必要になります。間伐をすると、残された木は日光をたくさん浴びて、さらに大きく育ちます。



④②と③を繰り返して木は立派に育ちます。そして間伐によって地面に日光が当たり、しっかりした根を張り、また、草木が生い茂り、緑のダムといわれる保水機能を発揮します。